



みなとしみず

発行

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡市清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

- 《目次》 ● 8. 11 駿河湾で震度6弱の地震が発生 (1)
● 耐震強化岸壁とは? (2)
● 清水港富士見6号上屋が完成しました (3)
● トアマシナ港湾公社総裁が清水港を視察されました (3)
● 田子の浦港岸壁工事見学会を開催しました (4)

「日本丸」「海王丸」
清水港同時入港情報
も掲載しました。

8. 11 駿河湾で震度6弱の地震が発生

8月11日(火)午前5時7分、駿河湾を震源地とするマグニチュード6.5の地震が発生し、静岡県内において最大で震度6弱を観測しました。

清水港湾事務所では、岸壁や防波堤などの港湾施設の被災状況確認ならびに早期復旧に対応するために、地震発生後すぐに全職員参集の非常体制を発令。所内に災害対策支部(本部は中部地方整備局本局に設置)を設置し、御前崎港・田子の浦港・下田港の各出先事務所とともに各地の港湾施設の被災情報の収集にあたりました。

その後、津波注意報の解除を待って、陸上点検と船舶による海上からの点検にそれぞれ出動し、ひび割れや陥没等危険な箇所はないか、岸壁が利用可能かどうか等、被災状況の確認を行いました。

職員による確認の結果、当事務所が平成15年に整備を完了した清水港新興津の耐震強化岸壁(水深15m)では被害はなく、地震発生当日の午前8時から予定どおりコンテナ船のコンテナ積み卸し作業が行われました。また、平成16年に整備完了した御前崎港の西ふ頭10号の耐震強化岸壁(水深14m)では、ふ頭用地の一部に沈下が確認された以外は、大きな被害は確認されなかったため、翌日以降の岸壁利用に支障は生じておりません。

また、中部地方整備局の防災ヘリ「まんなか号」が名古屋地区から出動し、地震発生から3時間後には静岡県上空からの調査が開始されました。同日午後には、関東地方整備局の「あおぞら号」も東京ヘリポートから出動して、上空からの調査を行いました。

翌日には、国土交通省の緊急災害対策派遣隊「TEC-FORCE(テックフォース)」が、比較的震源地に近い御前崎港、相良港、大井川港、清水港に派遣され、現地踏査による被害状況調査が行われました。

調査の結果、主に御前崎港や相良港の一部において岸壁背後地の沈下など港湾施設の被害が確認されました。調査結果については、今後の災害復旧や防災対策のために活用されます。

平成21年8月11日午前5時7分 発生



【清水港新興津ふ頭】

午前8時より、予定どおりコンテナの積み卸しが行われました。(平成21年8月11日 午前9時撮影)



【御前崎港西ふ頭】



耐震強化岸壁とは

8. 11に駿河湾沖で発生した、マグニチュード6.5の地震の時、清水港新興津岸壁には被害がありませんでしたが、御前崎港西ふ頭の10号岸壁には岸壁のコンテナヤードの一部に沈下(3cm程度)の被害が確認されました。しかし、どちらも「耐震強化岸壁」として整備されている岸壁です。“耐震”なのに…と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

では、「耐震強化岸壁」の“耐震”とは、ということなのでしょう。

そもそも「岸壁」とは、船が接岸するための港湾施設のことで、人の乗降や、船の荷物の積み卸しなどの作業がしやすいように整備されているものです。

通常の岸壁は、供用期間中(おおよそ50年)に1~2度発生する可能性のある地震が発生しても使用可能な性能を有する構造として整備されます。

そして「耐震強化岸壁」は、“その地域で将来発生する可能性のある最大の地震”が発生しても損傷は軽微なもの、例えば舗装の小さなひび割れ等の損傷でとどめ、震災後速やかに使用可能な性能を有する構造として整備される岸壁です。

ここで言う、“その地域で将来発生する可能性のある最大の地震”とは、静岡県内の施設の場合、東海地震を始めとする大地震が想定されます。また、“使用可能”とは岸壁における船舶の利用、人の乗降及び緊急物資等の積み卸しが可能な状態であることです。

平成7年に発生した阪神大震災では、神戸港においては耐震強化岸壁として整備してあった3つの岸壁を除き、全ての岸壁が使用不可能な状態となりました。被害の内容は様々ですが、岸壁上のクレーンの倒壊が生じたり、岸壁の水際線に凸凹が生じたり、岸壁上の舗装に大きな亀裂が生じたりして、岸壁の使用が不可能な状態であったそうです。一方で耐震強化岸壁として整備されていた3つの岸壁については、その被害は軽微なものにとどまり、震災直後から岸壁の使用が可能な状態であり、緊急物資の海上輸送の拠点として利用されました。

この度の駿河湾を震源とする地震では、御前崎港の耐震強化岸壁である西ふ頭10号岸壁(水深14m)のコンテナヤードの一部で沈下(3cm程度)が確認されましたが、極めて軽微な損傷であり、翌日以降に予定されていた岸壁の利用に支障は生じませんでした。このため、耐震強化岸壁としての性能は十分発揮されたことになります。

耐震強化岸壁を有する静岡県内の港湾



小口貨物の強い味方！「清水港富士見6号上屋」が完成しました。

一利用者ではコンテナ1個を満載するに至らない小口の貨物は、複数種の貨物を混載するため、場合によってはコンテナやトラックなどの輸送単位になるまで在庫を貯めておくか、あるいは、満載しないで運搬するなど、輸送頻度の低下や輸送コスト増など、利用者へのサービス低下を招いています。

清水港においても、パルプや住宅建材などの小口貨物を取り扱っており、利用者へのサービス向上を図るため、複数の利用者からの小口貨物をコントロールし、仕分け・配送できる機能を備えた上屋の整備が強く要望されていました。

これらの要望を受けて整備が進められていた「富士見6号上屋」がこのほど完成し、8月24日に竣工式典が行われました。この施設は、清水埠頭株式会社が事業主体となり、港湾機能高度化施設整備事業の補助を活用して整備されたものです。

式典では、はじめに、施主である鈴木与平清水埠頭株式会社代表取締役社長より「この上屋事業を軌道に乗せ、清水の町に貢献したい。」と挨拶がありました。また、来賓として出席した高橋浩二国土交通省港湾局計画課長（同省港湾局長代理）からは、「本施設の完成により、清水港が利用者のニーズに即したより使いやすい港として、地域の発展に大きく寄与することを期待します。」と挨拶があり、小嶋善吉静岡市長からは、「本上屋は、清水港の中核的な施設である。情勢が回復したときのために、しっかりと整えておく必要がある。」と挨拶がありました。

清水港は、工業出荷額全国第3位の静岡県をはじめとする東海地域の産業をささえる重要な港湾です。引き続き、港湾を通じて、地域産業の競争力強化および雇用の確保を図り、地域の活性化に貢献することが期待されます。



全長約220mもある、清水港最大級の大きさ。震度7にも対応できる耐震性に優れている。



鈴木与平清水埠頭株式会社代表取締役社長の施主挨拶



高橋浩二国土交通省港湾局計画課長(港湾局長代理)の来賓挨拶

マダガスカル共和国トアマシナ港総裁が清水港を視察されました

8月24日(月)に、マダガスカル共和国トアマシナ港湾公社のアベリン・クリスチャン・エディ総裁が清水港を視察されました。

マダガスカル共和国は、アフリカ大陸の東南に位置するインド洋に浮かぶ島国で、トアマシナ港は、国内で最も重要な海上輸送拠点港とされています。

今回の来日は、社団法人海外運輸協力協会(JTCA)の人材交流・育成事業として、財団法人国際臨海開発研究センター(OCDI)が招聘したもので、大阪港や横浜港、清水港などの日本の港湾を視察されました。

清水港内の様子や防波堤の製作現場などを視察され、エディ氏からは、「清水港とトアマシナ港の大きさがほぼ同じなので、非常に参考になる。また、トアマシナ港でも清水港と同じアクアブルーとホワイトをベースとした色彩コントロールをしている。」など、両港の共通点がいくつかあることがわかりました。

宿泊先のホテルからは、清水港が一望でき、また、夏ではめずらしく富士山がすっきりと見え、清水港の良さを充分にお伝えすることができたことと思います。

今回の視察が、トアマシナ港の港湾整備・拡張と機能強化、港湾分野における協力関係の強化に繋がればと期待しております。



清水港の概要説明の様子



清水港内を視察

現場見学会を開催しました～田子の浦港岸壁工事～

田子の浦港は、製紙工場をはじめとする原材料輸入・加工型の企業活動を支える重要港湾です。

中央地区には、田子の浦港で取り扱う貨物の37%を担う中心的な岸壁がありますが、水深が9mと浅いため、大型貨物船が接岸できないことや、また、老朽化により耐震性が不足していることなどの課題を抱えていることから、平成18年度より、清水港湾事務所において2号岸壁（水深12m、延長240m）の改良工事を進めています。

8月28日に、現在工事を施工している大成建設(株)横浜支店と清水港湾事務所が協力して、地域の方を対象とした工事見学会を開催しました。見学会には約90名の方が訪れ、重さ約300トンもあるジャケット(*)の据付作業を見学して頂きました。

見学に訪れた方からは、「田子の浦港が県内2位の大きな港とは知らなかった。地元の港でこんな大規模な工事を見ることができて良かった。」と感想をいただきました。

今後も、地域の方のご理解とご協力の下、工事の安全に努めながら、施設の早期完成をめざして参ります。 *：供用中の港内での作業を少なくするために、別の工場で組んでから現場に搬送する構造物



700トン吊の大型クレーン船で、据付作業を行います。



ジャケットの大きさは、幅約38m、高さ15mあり、重さはジャンボジェット機とほぼ同じ大きさです。

「日本丸」「海王丸」が2隻同時入港します♪

清水港開港110周年を記念して、訓練帆船「日本丸・海王丸」が清水港に同時入港します。2隻が同時に入港するのは10年ぶり。ぜひ！この機会をお見逃しなく！

スケジュール		日本丸	海王丸
10月15日(木)		9:30頃入港予定 歓迎セレモニー 10:45～11:00	10:00頃入港予定
10月16日(金)		* * * * * 休養日 * * * * * (清水総合運動場武道場にて「帆布裁断作業」が一般公開されます)	
10月17日(土)	午前		一般公開 9:00～11:00
	午後	セイルドリルの披露 13:00～16:00	一般公開 13:00～15:30
10月18日(日)	午前	一般公開 9:00～11:00	
	午後	一般公開 13:00～15:30	セイルドリルの披露 13:00～16:00
10月19日(月)		14:00～14:30 出航・登しょう礼	

★毎夜イルミネーションとライトアップをお楽しみいただけます。
※天候等の都合により、予定が変更になる場合があります。

【お問い合わせ先】清水港客船誘致委員会事務局 静岡市清水港振興課
電話054(354)2432 ホームページ <http://www.shimizu-port.jp/index.html>



「日本丸」清水港にて撮影



「海王丸」御前崎港にて撮影

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く） その他、海とみなとに関することは
★携帯電話・PHSからもご利用できます★ 何でもお問い合わせください

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

太田・屋敷 TEL 054-352-4148

☑ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

